ケース７　蘇る町づくりに貢献する地域交流拠点施設
ー　道の駅・みなとオアシス　「八幡浜みなっと」設立　ー

キーワード：点から線へ　線から面へ

１　学習内容

交流人口の拡大と港町・八幡浜の復活を目指した取組

２　学習目標

水産市場と連動した水産業振興策を中心に、人が行き交う空間づくりと人が活躍できる舞台づくりを目指す取組の事例の考察を通して、その特徴や在り方について理解する。

３　学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「マーケティング」

⑴　現代市場の特徴

ア　現代市場のメカニズム

消費の動向や生産の動向を調査･研究することによって現代市場の動きを読み取らせ、それとともに対象となる地域の特性も考えさせる。

「商品開発」

⑴　商品と商品開発

イ　商品開発の意義と手順

商品開発の意義及び商品のライフサイクルについて理解させる。また、商品開発の手順と考え方について、商品開発の具体的な事例を取り上げて理解させる。さらに、商品開発や商品の流通における法令遵守などの社会的責任及び販売後の商品の評価とそれに基づいて商品の改良を行うことの重要性について理解させる。

「広告と販売促進」

⑵　広告と広報活動

エ　広報活動の意義と手法

広報活動の意義や役割について理解させる。また、効果的な広報の方法について、企業などによる広報の具体的な事例の考察を通して理解させる。

４　評価の観点

・市場調査の意義や手法について関心をもち、市場調査に関する学習に意欲的・主体的に取り組むとともに、消費者の購買行動に関する特徴や、販売促進に関する知識や技法を身に付けるべく意欲的に授業に取り組んでいる。【関心・意欲・態度】

・市場調査に関する基礎的な知識・技法を市場の特徴との関連から的確に把握し、自ら考察を深め、目的に即した市場調査の方法について自ら考え、判断している。【思考・判断・表現】

・消費者が購買に至るまでの行動過程や心的誘発要因や、経営者や計画担当者が行う販売・仕入計画の立案や、在庫管理等の効果的な進め方について、自らがその立場として思考し、その考えを表現している。【思考・判断・表現】

・消費者の行動過程や、経営者や計画担当者の販売予測や在庫管理について、専門的・科学的手法を活用しシミュレーションしている。【技能】

・市場調査がマーケティング活動の出発点であることを理解するとともに、市場調査に関する様々な技法に関する基礎的な知識を獲得している。【知識・理解】

・計画的な販売・仕入活動の意義やその進め方、販売促進に関する専門的・具体的知識について理解している。【知識・理解】

事例　ケース７　蘇る町づくりに貢献する地域交流拠点施設

１　事業施設の目的

平成 12 年４月、八幡浜港は国土交通省が指定する重要港湾から地方港湾へ、いわゆる格下げとなった。重要港湾は海上輸送網の拠点と位置付けられ、後背地に工業地帯を有している港が多く、国内の産業政策上、重要性の高い港湾が指定される傾向が強い。九州と四国を結ぶフェリーの発着港となり、しかも利用者は市内を通り抜けるだけのこの港が、それから外れるのもやむを得ない。整備を促進するための国庫補助金の率も必然的に下がり、港はおろか、町全体が衰退への一途を辿ることになりえない。１０数年前と比較すると、柑橘類の売上は３分の２に、そして魚介類の売上は４分の１にまで落ち込んでいる。この状況を打破しようと、「みなっと」設立に向け、市民が動き始める。

２　事業実施の経緯

平成 12 年４月　　国土交通省指定「重要港湾」から外れる
平成 14 年３月　　八幡浜港振興ビジョン策定
平成 15 年８月　　八幡浜みなとまちづくり協議会設立
平成 17 年８月　　八幡浜港を「みなとオアシス」に登録 → 国土交通省：認定
　　（ 全国８５か所　県内：宇和島きさいや広場と２か所のみ ）
平成 19 年８月　　八幡浜港振興ビジョン整備実行委員会設立。
平成 25 年３月　　「道の駅」登録及び「みなとオアシス」変更登録
平成 25 年４月　　施設グランドオープン

３　施設紹介

(1)　みなと交流館　（ 観光案内・まちづくり活動拠点施設 ）

管理運営は、指定管理者ＮＰＯ法人港まちづくり八幡浜と、「八幡浜元気プロジェクト（ＹＧＰ）」の共同体が行う。

ボランティア、まちづくり、文化の各活動拠点として、市民が気軽に集い、ミーティングや作品発表、体験活動の場としても活用可能。貸館業務だけでなく、自ら企画するイベントや講座の開催、市民団体の中間支援、多様な地域情報の発信など、市民活動の活発化や港の賑わいづくりに資する取組も実施している。

(2)　アゴラマルシェ（ 産直・物販・飲・施設 ）

民設民営方式の事業参入者選定コンペを経てアライアンス会社として、新規設立会社（株）アゴラが運営。市も一部出資しているが、経営は民間主導。

(3)　どーや市場（ 海産物直売所 ）

公設民営。施設は八幡浜市が整備。魚の町にふさわしい１６の鮮魚店が、隣接する魚市場へその日に水揚げされた新鮮かつ安心安全な海の幸を浜値で販売する。リニューアルに合わせ、多くの店主・従業員の方々が、(社)日本食育者協会が推奨するシーフードマイスターの資格を取り、一般消費者に、素材を生かした料理法をアドバイスしたり、その場で魚をお好みにさばいたり、これまで以上にきめ細かなサービスの提供に努めている。

(4)　どーや食堂

「魚を気軽にその場で食べたい」という顧客の要望に応え、どーや市場の直営店として平成 26 年３月にオープン。どーや市場で購入したお好みの魚を持ち込むことができる海鮮バーベキューコーナーを設置している。客席スペースは、雑多感と簡素なイメージを演出するため、壁ではなくビニールカーテンで囲うとともに、学校で余った机・椅子などを活用している。

(5)　公衆・トイレ

「トイレは集客を左右する大切な要素の一つ」と捉え、全国公募によるデザイン設計コンペを実施し、258 点の応募の中から、女性目線に立った配慮を施したデザインを選定する。

(6)　緑地公園

全体面積 7,400 ㎡の、これまでの八幡浜にはなかった規模の広さを有し、自由な空間として芝生広場を整備した。市民参画の取組として、かまぼこカーテン、みかんの丘を整備し、八幡浜らしい警官を創出した。この緑地を使い、軽トラ市、産業まつり、まるごとみかんフェスタ、みなっと日曜市、手づくりマーケット等、多種多様なイベントを開催している。

4　今後の課題

平成 25 年４月にオープンしてから、利用客も１日平均 3,000 人を超えており、中でもオープン時やイベント時には 7,000 人を越えるなど、上々の滑り出しとなった。しかし、リピーターをいかに確保し、この賑わいを継続できるかという課題を持っている。そのために、どのような手法によってこれを克服していけるかが、これから八幡浜市民の動きが注目される。

2016/2/1 資料作成

ワークシート

ケース７　蘇る町づくりに貢献する地域交流拠点施設

ー　道の駅・みなとオアシス　「八幡浜みなっと」設立　ー

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　2000 年頃からの八幡浜市の状況をまとめなさい。　【知識・理解】

2　「みなっと」設立に至るまでの目的をまとめなさい。　【知識・理解】

3　今後の課題を考えてまとめなさい。　【思考・判断・表現】

4　上記課題を克服するために必要な取組を考えてまとめなさい。　【思考・判断・表現】

5　この内容から感じたことをまとめなさい。　【思考・判断・表現】

ワークシート　解答例

ケース７　蘇る町づくりに貢献する地域交流拠点施設

ー　道の駅・みなとオアシス　「八幡浜みなっと」設立　ー

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　2000 年頃からの八幡浜市の状況をまとめなさい。　【知識・理解】

柑橘類の売上は３分の２に、魚介類の売上は４分の１にまで落ち込んでいる。商店街の約半数近くが店を閉め、買い物客は隣の市へと流出している。

2　「みなっと」設立に至るまでの目的をまとめなさい。　【知識・理解】

第一に経済効果を広く生み出すこと。まずは市民を最大の顧客と位置付け、購買力の市外流出に歯止めをかけ、需要を市内へ呼び戻すことで、市外・県外からの来訪者増大に結びつける。第二に、より多くの市民に港での種々の取組に関わっていただくことで、地元に対する誇りや愛着心を育むことができる環境づくりを展開する。

3　今後の課題を考えてまとめなさい。　【思考・判断・表現】

どれだけリピーターを確保し、賑わいを継続できるか。また、港だけが潤うような計画であってはならない。民設民営であることの限界をどのように捉え、市ともどの様に関わっていくかも思案しつつ、消費者のニーズに応えることができる取組を展開していかなければならない。

4　上記課題を克服するために必要な取組を考えてまとめなさい。　【思考・判断・表現】

施設における設備は充実しつつある中で、市内の商品の少なさが浮き彫りとなってきたことを踏まえ、６次産品など地域の特産品を活かした加工品開発が急務である。しかし、漁獲量の回復が見込めない以上、農産加工場などの建設も進めていく必要があると思われる。

5　この内容から感じたことをまとめなさい。　【思考・判断・表現】